

書評

花木・観賞緑化樹木の病害虫診断図鑑
 第Ⅰ巻 病害編 第Ⅱ巻 害虫編
 堀江博道/竹内浩二/近岡一郎 編著
 B5判, 第Ⅰ巻 424頁 (カラー 332頁)
 第Ⅱ巻 428頁 (カラー 344頁), 定価 18,000円+税
 大誠社 (2020年9月11日発行)
 (ISBN 978-4-86518-099-2)



植物医科学の専門書のシリーズが法政大学植物医科学センターと(一財)農林産業研究所から出版されている。そのシリーズのNo.6が本書である。このシリーズでは「植物医科学実験マニュアル」「植物医科学の世界」等、植物を総合的に診断し植物保護に役立つ、植物医科学関係のわかりやすい実用的な専門書が出版されてきた。本書は専門書ではなく図鑑であるが、このシリーズの流れを汲み植物保護を意識した構成と内容になっている。

最近、環境保全の一環として緑地や街路樹の整備が進み、それら公共の場所やまた身近な庭木等に多くの種類の花木や観賞緑化樹木が植栽されるようになった。植栽された樹木の管理でまず問題となるのが病害虫の発生とその被害で、発生した病害虫を診断しその対処が求められる。病害虫を診断するための参考書や図鑑は少なくないが、樹木(木本植物)関係の書はそれほど多くない。植栽される花木や観賞緑化樹木の増加と多様化に応えられる本書の出版は時宜にかなう。

本書は第Ⅰ巻の病害編と第Ⅱ巻の害虫編の2分冊で構成されている。病害編、害虫編とも3部構成となっている。第1部は病害編、害虫編ともに図鑑形式で編成されている。病害編では樹木ごとに主要な病害を取り上げ、診断、病原菌、対処の三つの項目が解説されている。樹木は被害を受ける期間が長いことから時期によって異なる症状や被害状況の写真が多数掲載されていることに加え、病原菌の写真も要所に散りばめられていることは診

断の助けになる。さらに、第1部の締めには病徴の種類、標徴と生理障害の代表的な症例が写真付きでわかりやすく解説されているのは親切である。害虫編も第1部は病害編と同じ図鑑形式で編成されており、樹木ごとに主要な害虫を取り上げ、寄主、害虫の生態・形態、被害、対処の四つの項目が解説されている。害虫の写真だけでなく、被害状況の写真が多いのは診断の助けとなる。病害編、害虫編ともに特色があるのが第2部である。病害編では、近年問題となることが多い腐朽病害をまとめ、病害ごとに樹種・腐朽型、形態、ノートの項目が写真付きで解説されており、被害を受ける樹種は何か、どのような被害で特徴は何か等、腐朽病害として知りたい知見が的確に得られるようになっている。害虫編では、花木や観賞緑化樹木害虫の土着天敵を捕食性と寄生性に分けて取り上げ、多くの写真とともに対象害虫と生態・形態が解説されている。一つの図鑑に害虫だけでなく樹木害虫に関する土着天敵を解説にとどまらず写真で確認できるのは、植物保護の視点での利用に役立つ。第3部は、病害編、害虫編ともに植物保護の基本が書かれている。病害編は病原体の種類や発生活態など病害診断に参考となる事項、様々な防除方法など対処の参考となる事項、一方、害虫編は主な害虫の種類や分類、生態的特性、加害様式など害虫診断の参考となる事項、IPMをはじめ対処の参考となる事項が書かれている。この第3部は、樹木の健康管理や保護に従事されている方々はもとより、これからかかわることになる方々にも大変参考になると思われる。なお、本書では探す樹木を見つけやすいように、樹木を科別・種別に配置するとともに異名でも検索できるようになっているのはありがたい。

本書には、病害虫診断に不可欠な事項の的確な解説とともに4,700枚もの多くのカラー写真が掲載されている。植物保護の専門家にとって十分に満足できる充実した内容の図鑑であり、各種病害虫図鑑のなかの一つとして手元があれば重宝すると思う。一方で、花木・観賞緑化樹木の植栽・管理・保全等の業務に携わっている方や庭木愛好の方の多くは保護や病害虫の専門家ではなく、それらの知識や経験が必ずしも豊富とは言えない。しかし、樹木の維持管理では病害虫被害への対応は不可避である。本書では、病害虫の診断や対処のポイントだけでなく、植物保護の基礎も簡潔かつ平易に解説されている。花木・観賞緑化樹木の関係者に広く本書をお薦めしたい。

(元日本植物防疫協会 高橋賢司)